



### 【里親登録のきっかけ】

我が家は再婚家庭で、夫の連れ子と実子あわせて3人育ててきました。そのこどもの成長の過程で、発達のコボコボが見えてきたので、研修に参加したり、書籍を読んだりととにかく情報収集し、対応スキルを学び、身に着けました。

そんな中で、虐待や乳幼児の遺棄事件等のニュースを見るたびに、ニュースになっているこどもの中にも発達に躓き、困っている子がいるのではないかと、思うようになりました。そして里親としてできることがあればと思い里親登録をしました。

### 【こどもとの出会い】

里親登録した後、ふれあいフォスター事業を通して施設で生活するこどもを受け入れました。当時小学生だった彼は、とてもシャイで、言いたいことが言えない恥ずかしがり屋な子でした。なので、なるべく本人の言葉ができるように接しました。我が家の夏の恒例行事、BBQ 大会や、花火大会も一緒にしました。彼もそれなりに楽しんでくれている様子でした。その後の冬にも来てくれたのですが、コロナ禍になり、フォスター事業や園に遊びに行く等、交流ができなくなってしまいました。

### 【生活のはじまり！おりこうさんの1か月】

しばらく交流が途絶えましたが、彼が中学に進学するタイミングで里親委託が決まりました。施設の先生から「フォスターのときの写真を大事に持っていて、時々見返していた」という話を聞いて、自分たちに慕わしい感情があったのかなと嬉しくなりました。

我が家での生活が始まると、初めの1か月はいわゆる“おりこうさん”でした。「〇〇してみる？」と聞くと「うん！」と可愛い返事がきます。ただ、これがおりこうさんを装った姿だったと後で気が付きます。

### 【安心の中での汚部屋と不登校】

生活を共にする中で少しずつ彼の本心が出始めました。本心というか、気持ちがゆるみ、ほころんできたのだと思います。時間通りの生活から、時間の概念が崩れはじめ、登校するかどうかは気分を決めるようになりました。そして、学校へ行かない、入浴しない、片付けしない、着替ええない、、、夜はネットの友達とやりとり、という状態になりました。

この時の彼の気持ちを想像すると「エネルギー切れになっているからもう何もしたくない！しないといけないのは分かってるけど面倒くさい！動かたくない！」というものだったのではないのでしょうか。そして「権利」という言葉にすぐ執着し、何かと権利を主張するようになりました。こどもの権利ノートを片

手に「なんでもっと早く教えてくれなかったんだ！」と怒りを露わにしました。今まで彼の権利が侵害され、大人を信用できなくなっていたのかもしれませんが。今まで我慢してきた気持ちがいっぱい出てきました。

これが試し行動だったのかなと、落ち着いた関係性で話しができるようになった今になって思います。

### 【里子の怒りの感情】

彼の養育を通して、里親はこどもがもつ大人へのうらみやつらみを受け止める役割があるのだと思いました。彼と接するときには、まずは「大人」を、そして「人」を信用できるベースができるように、怒らず、どんな感情をぶつけられてもこちらは感情的にならないようにしました。

怒りの感情をぶつけられると、こちらもとてもしんどくなり「今日のご飯作るの無理！」となったこともありました。それでも、彼の今までの我慢からくる怒りの感情をしっかり吐き出させることが大事かと受け止めました。

### 【里子の変化】

部屋の電気やエアコンは24時間365日つけっぱなしでした。「電気はけしてね」と伝えることは伝えますが、それでも彼の好きにさせることで、少しずつ、自分であるようになってきました。そして、こちらの要望も聞いてくれるようになり、彼が本来持つ素直さが出てきました。

### 【里子の養育を通して】

実子と里子、どちらの養育も経験して感じたことは、里子の養育は、実子以上に神経をすり減らすということでした。実子には気軽に使う言葉も、里子には言葉を選ぶ必要がありました。言葉一つに過剰に反応することがありましたので、使わないようにしたり、言い換えたり、語彙力が鍛えられました。だからと言って懇切丁寧かと言われるとそうではありません。

### 【育ち直し】

日頃から私は「困ったことがあればいいに来ていいんだよ」「こうしたらどう？」と一人の人生の先輩として、話しをしています。

自分が里親として出来る事は、彼らの「育て直し」ではなく「育ち直し」をサポートすることだと思っています。彼らはそれぞれに育つ力を持っています。その育つ力を引き出し、サポートする、それだけが里親の役割ではないかと思いません。

